

○政策セミナー 於：四日市都ホテル

今月 5 日の政策セミナーでは、多くの皆様のご出席、ご協力、ありがとうございました。今後ともあたたくいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

○小沢さんは、迷ったけれど・・・

小沢さんの辞任騒ぎには、まいりました。福田総理に言われて迷ってしまった小沢さんの大連立は、政党的再編(ガラガラポン)につながる選択です。それに対して、私たちが目指す小選挙区制で支えられる二大政党制は、選挙で国民が政権を選ぶ制度です。10 年前、新進党の失敗を反省して、私たちは小選挙区制を選択しました。今の民主党の中では、ガラガラポンではなくて、選挙で勝って政権を担うことが大切だという意識がしっかりと定着しています。小沢さんには、そのところが理解できていなかったと言う事でしょうか。ともあれ、小沢さんは少しぶれたけれど、民主党はしっかりと腹が据わっていたと、中にいて実感できました。

○誰も予想のつかないテロ特法案

与党の提出した新テロ対策法が衆議院を通過しました。今は、参議院の入り口で立ち止まっていますが、やがて審議に付されます。そのタイミングで、民主党の対案が示されることとなります。福田総理は、この時期を選んで訪米をし、ブッシュ大統領の言葉を借りて、日本の貢献が大切だから、民主党もこの法案の成立に協力してインド洋での給油を再開すべきだとキャンペーンを張りました。民主党は、「日本の貢献は、自衛隊の派遣だけにこだわることはない。民生支援を軸に、具体的にアフガンやイラクの国家の復興と国民生活の向上に役立つ支援をしよう」と提案します。

山田洋行の元専務による、守屋前事務次官はじめ防衛省幹部への不正な営業攻勢の実態が明らかになりつつあります。額賀さんや久間さんのような族議員といわれる政治家まで飛び火する中身で、ロッキード以来の広がりを見せる可能性が出てきました。80%

が随意契約で、しかも、アメリカの政治と軍需産業コンプレックスの手のひらの上で踊らされているような武器調達の実態を見せられると、改めて怒りが込み上げてきます。

私は、この際、「思いやり予算」で日本が負担しているアメリカ軍の駐留経費や沖縄基地移転にかかる経費の見直しをすべきだ。さらに、「アメリカが見積もった中国や北朝鮮の軍事的脅威を鵜呑みにして、日本の防衛レベルを決めている現状に対して、日本独自の情報に基づいた現状分析をやって、自立をしていく気概を持つことが大事だ。」と、言っています。

テロ特で 12 月中の解散総選挙になるのかどうか、国民世論しだい。両党ともに、それを見続けていくのだと思います。

○これからが本番の税金論議

税制改正を今年はどこまでやるか。このことが政治の焦点になってきました。議論の場は、従来から大きく分けて 3 つあります。まず、先日答申が出てきた政府の税制調査会。日本経済研究センター特別研究顧問の香西泰会長が仕切っていますが、学者や専門家を中心に各種団体の長などが集められて、形の上ではなるべく中立的な提案をすることになっています。しかし実際は、財務省官僚の意向が反映しています。次に、自民党の税制調査会。各種団体などから出てきた要望や選挙を意識した政治的な判断を基準に、政府税調が出してきた原案の取捨選択をします。さらに、小泉さんが導入した官邸の経済財政諮問会議が、時の経済運営を基本に税の位置づけを打ち出していきます。これまでは、この 3 つを調整して税制改正法案が出てくるのですが、自公の絶対多数に押し切られて、私たちの修正案は通ることさえありませんでした。しかし、今年はすっかり様変わり。民主党の税制調査会がこの議論に参加しないと、参議院で法案が否決されてしまうからです。おかげで、これから何週間かの間、民主党の税制改正案をまとめるために、毎日、税金三昧です。